

状態が変化するクレンジングの開発

～BUBBLES CLEANSING～

化粧品総合学科4班

生澤 加奈、石井 愛莉、小高 璃子、橋本 采奈

【目的】

クレンジングの使い方が人それぞれ違うことに疑問を抱き、使用方法や洗い流すタイミングがより分かりやすい製品を作製したいと考えた。前期はアントシアニン色素を用いて、pHの変化を利用し変色させたが、色の違いが分かりづらかった。そのため後期は、メイクとクレンジングを馴染ませた時に発泡するクレンジングの開発を目指す。

【方法】

適切なクレンジング時間を知るため、市販のクレンジング製品数種類を使用して調査した。その結果、最適な時間で状態が変化し、肌負担の少ない自己発泡型ジェルクレンジングに決定した。顔・腕で使用試験を実施し、水分量・水分蒸散量を機械で測定した。また、被験者の協力のもとアンケートを実施し、官能評価を行った。

【結果】

水分量：本製品を使用して、値の増減はあるものの、市販製品よりも水分量が多い傾向にあった。

官能評価：概ね良好であった。

他の項目については、アンケート集計中である。

【まとめ】

クレンジングミルク・発泡・ジェル・クリームで水分量及び水分蒸散量の測定を実施しその剤型によって結果が異なったことから、メイクや肌状態に合うクレンジングの選定及び乳化方法(なじませ方等)を変化させる必要性が高いことが分かった。上記結果から、適正な乳化時間及びなじませ方がわかりやすいクレンジングの開発を行い、顔の油分の総量によって発泡するまでの時間が変化、泡が消えるまで時間を置かせることで、洗い流すタイミングがより分かりやすくなり、摩擦力を軽減させることができた。

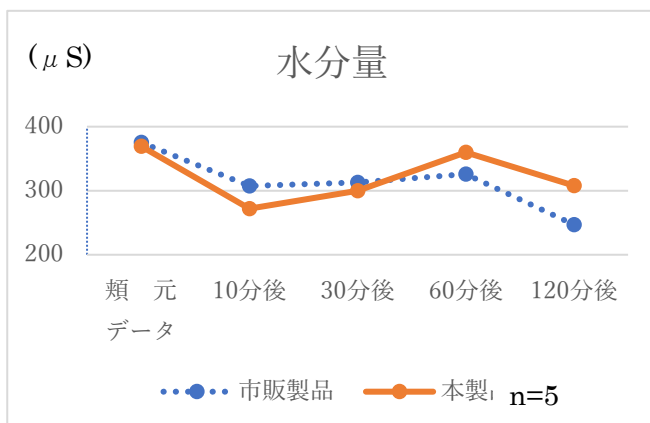


図1 水分測定

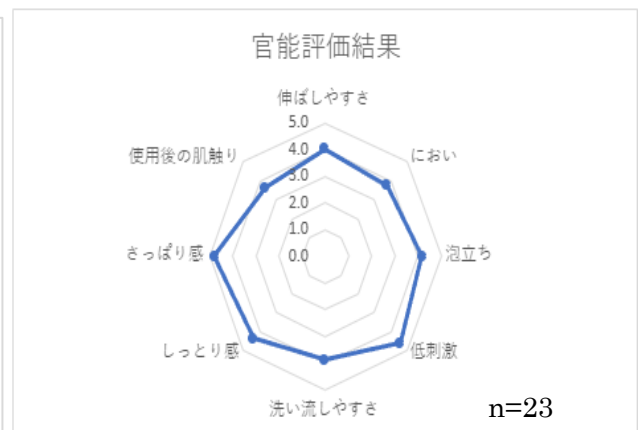


図2 官能評価